

令和6年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(にかほ市)

1 市の概要(人口22,272人)※令和6年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和6年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0園	0園	4園	4か所	0園	0園	4校

その他:なし

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
(1) 各園の特色・特徴を把握し、行政との信頼関係を密にしながら保育の質の向上に繋げる支援体制を構築する。 (2) 教育・保育アドバイザーの支援のもと、保育者が抱える課題等の改善を図り、意欲の向上に繋げる。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)
(1) 就学前教育が及ぼす認知能力・非認知能力の育成を認識し、行政、保育者、保護者、教育者が連携し、親の経済状況による教育を受ける機会の格差が生じない環境の構築を図る。 (2) 「子ども・子育てに寄り添うまち」として各保育施設、教育施設を核とした、地域全体での子育て支援体制の充実を図る。 (3) 幼児教育保育の質の向上を図るため、連携協定先の高等教育機関等の助言を受けながら、各保育園・認定こども園の特色を生かした保育の実現を進め、地域への愛着が高い子どもを育てる。
主な内容
(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育アドバイザーを子育て支援課に配置 ・教育・保育アドバイザーを活用した事業の周知 ・教育委員会との連携強化のための情報交換 (2) 教育・保育アドバイザーによる市内保育所・認定こども園の訪問 <ul style="list-style-type: none"> ・園内の職員間での円滑な情報共有について ・保育者と保護者との関わりについて ・職場のコミュニケーション、人間関係について ・対応が難しい子どもとその親との関わりについて ・障害児とその親との関り、指導について ・虐待等の早期発見、防止に繋がる情報共有について (3) 専門性向上のための研修、研究支援 <ul style="list-style-type: none"> ・体制活用のための人材育成方針の作成・活用 ・各園の連携を深めるとともに保育レベルの共通化を図り、園内リーダー育成のための情報交換会を実施 ・保育の資質向上のための研修会等について、現状を分析しスキルアップの機会を創出する (4) 幼小接続の推進など、体制の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会、教育専門家、市が連携協定を締結した大学等高等専門機関の教授ら研究者と保育所による幼児教育の効果を実践する研究会の開催と検証

<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会部局との情報共有を密にし、市で進める幼少連携の強化を図る 	
(5) 県と市の連携を含めた域内全体の質向上を図るための仕組みづくり	
<ul style="list-style-type: none"> ・県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法等の共通理解 ・就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用 	
年度別重点	
令和4年度	園との連携体制をさらに深化させ、各園の課題やニーズの把握に努め支援を行う。幼保小接続の推進に向けた連携体制の構築と強化。
令和5年度	教育部局と円滑な情報共有を図るために連携体制の強化と円滑な接続に向けた合同研修会の実施。
令和6年度	就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との接続に向けた相互理解の取り組み、合同研修会の充実に努める。

4 令和6年度の実施

目的	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育アドバイザーが各園を定期的に訪問し、各園の取り組みや課題の把握に努め、課題解決のための支援を行う。 2. 行政と園が連携して教育・保育の質の向上に資する取り組みを行う。（研修等） 3. 小学校就学に向けた連携体制の強化に努める。 	
実施内容及び実施状況（最終報告）	
<p>(1) 教育・保育アドバイザーによる園の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課に教育・保育アドバイザー1名を継続配置 ・教育・保育アドバイザーが定期的に保育所・認定こども園を巡回訪問し、各園の実情を把握し、適切な助言を行う（8施設：72回訪問） ・子ども家庭総合支援拠点、ネウボラ（母子保健支援班）、障害児集団訓練事業等との情報共有を図り、支援が必要な子どもとその親に対して適切な支援を行う <p>(2) 専門性の向上のための研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各園の連携を深めるとともに保育レベルの共通化を図り、園内リーダー育成のための情報交換会を実施 ・保育の資質向上のための研修会等について、現状を分析しスキルアップの機会を創出する <p>(3) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校主催の幼保小連絡協議会への参加により、幼保小連携に関する情報提供を行う ・子育て支援課と小学校教育部局（学校教育課）の連携を強化し、円滑な幼保小連携のための情報共有を図る （6～7月に学校教育課、ゆり支援学校、母子保健班と就学前施設訪問） ・教育委員会部局との連携を強化し、就学前教育・保育と小学校の円滑な接続を推進する ・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催（年1回） にかほ市 就学前・小学校合同研修会 8月7日（水） ・特別支援教育研修会（にかほ保育園・院内小学校） 1月22日（水） ・授業を見合う会（平沢小学校） 2月18日（火） <p>(4) 県との連携体制及びアドバイザーネットワークの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法等の共通理解を図る 	

(架け橋プログラム合同開発会議、市アドバイザーに学ぶ研修会、市主催研修会など)

・県就学前教育推進協議会(年1回)、アドバイザー連絡協議会(年5回)等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用

(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実

- ・ゆり支援学校 特別支援教育AD・教育委員会・母子保健班・市ADと主に年長児を対象に各園を訪問する(6月～7月中 8園)
- ・たんぼぼキッズ(障害児集団訓練)に参加
- ・ゆり支援学校 特別な支援を必要とする子どもの情報交換会
開催日：8月27日(火)
参加者：県教育委員会、にかほ市教育委員会
ゆり支援学校、子ども家庭センター
- ・就学児健康診断 10月2日(水) 10日(木)



集団訓練の様子

【成果】

- 早い時期からの各関係機関と一緒に訪問していくことで、就学までどんな支援が必要か？連携はどうか？などこれからのことも話し合い、願いや思いを共有することができた。
- 直接、園の要望や悩みなどを聞くことができ、同時に関係機関と共有することで素早い対応やアドバイスをを行うことができた。
- 後日、ゆり支援の先生の園訪問・園内研修、個別の教育相談実施。教育委員会から就学に向けてのおたより配布など。

【課題】

- 保育者の資質向上の面では、直接、結びつかないかもしれないが、様々な関係機関も訪問に加わることで、情報を共有しながら、子どもについて語り合うことで、新たな視点も加わり援助や手立ても広がった。その学びをどうのようにつないでいくか考えていかななくてはならない。

【改善の方策】

△これで、終わりにせず関係機関と連携を図りながら架け橋期へとつないでいく。
「支援を必要としている子、支援を必要としている保護者」などに対して、どこまで、踏み込んでいいのか改めて考えさせられる。個人情報になるため、難しい取り扱いになるが、子どもにとって何が一番なのかを第一に、必要とする関係機関と連携を強化し、全体で考えていく。また、にかほ市の現状を理解しながら必要な支援が途切れることがないようにしていく。

(2) 教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援

派遣実績 計 8施設・4校(その他施設：9施設) / 全114回	
回	・保育園：私立4園(37回)
教	・幼保連携型認定こども園：私立4園(34回)
	・小学校：4校(23回)
	・中学校：3校(3回)
	・その他の施設：学童：6カ所(6回) 放課後デイ：2カ所(3回) 支援学校：1校(4回)、 その他：(4回)
訪	・園内研修支援(保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画) 8園(15回)
問	・公開保育支援(指導・助言、公開保育研究会の運営・準備) 8園(5回)
内	・個別相談(保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等) 8園(48回)
容	・状況把握(保育の状況観察、園長等への聞き取り調査) 8園(12回)
	・周知活動(広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明) 8園(48回)

	9施設（9回）
	7校（14回）
・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）	8園（ 回）
・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）	5校（17回）
	8園（16回）
・特別支援（特別支援に関する相談、面談等）	8園（25回）
	5校（13回）
・その他	（2回）
理由	各園を定期的に訪問することで各園の実情や課題等を把握し、課題解決に向けた支援を行い、保育の質の向上を図る。
	家庭児童相談室、子ども家庭総合支援拠点等と情報共有を密にし、対応が難しい子どもとその保護者への関わり方について連携しながら支援を行う。

（令和7年3月末現在）

【成果】

- 訪問を重ねることで、園や職員との信頼関係も少しずつ構築でき様々な語り合いができるようになった。
- KJ法で協議を進める園が多いが、数を重ねる毎にその時どんな手立てを考えるか等その保育の現場を自分に置き換え意見を出すことも多くなった。

【課題】

- 子ども達の状況など場面を据えた話題は活発にできるが、保育の中から見つけた手立てや環境の構成、子どもの育ちや学びなど深い語り合いにまでに進まないことがある。
- 開かれた保育、主体的な保育の良さ、一人一人の子どもの姿の読み取りなど改めて全職員で学ぶ機会を作っていく。（管理職も含め）

【改善の方策】

- △園内研修などの質の向上から一歩先に進めるよう、他園や学校など別の視点で見合う機会を作っていく。
- △市主催の研修会の内容へとつないでいく。



付箋を使った園内研修

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

①特別支援教育研修会

開催日 1月22日（水）
 場所 午前：にかほ保育園・午後：院内小学校
 内容 保育参観・研修会
 講師 きらり支援学校
 参加者 保育士 2人、学校教諭 13人

②保育研修会

開催日 1月27日（月）
 場所 にかほ市総合福祉交流センター スマイル
 内容 講話 「保育者に求められる保護者支援 子育て支援」
 演習 「事例を基に…」 ロールプレイにて
 講師 県幼保推進課
 参加者 就学前施設職員 7人

※保育士等キャリアアップ研修「保護者支援・子育て支援」2. 5時間対象
(参加レポート提出、アンケート実施)

<参加者からの感想より>

満足…7名 やや満足…なし やや不満…なし 不満…なし

- ・保護者支援・子育て支援で大切な信頼関係の築き、寄り添う事について理解していたつもりでも研修に参加することで、改めて認識でき、考える良い機会となる。保護者対応の難しさを他園の先生と共有することができ充実した時間となった。
- ・必要なことを丁寧にわかりやすく講話していただけて、大切なことを再確認できた。また、ロールプレイを通じて普段の自分の保護者とのやりとりの中での伝え方の甘さなどを感じることができ、他園の先生方から学ぶことも多く、反省しながらも今後も信頼関係を丁寧に築きながら、明日からの子育て支援・保護者支援へいかしていきたいと強く思った。
- ・事例をもとにロールプレイ形式で保護者の思いを考えたり、適切な伝え方を探ったりしながら、他園の先生方と意見交換ができた。



【成果】

○年度途中ではあるが、巡回訪問を重ね出てきた課題を研修会のテーマとし、実施の方向に進めることができた。

【改善の方策】

△研修に参加した職員から、継続してほしい研修や今後開催してほしい内容について様々な要望があった。巡回訪問の際に課題に出たことなど精査し、市として次年度必要な研修内容を検討していきたい。

△年度当初に、市主催の研修会計画を提示し、職員の参加を促していく。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・教育委員会部局との連携を強化し、就学前教育・保育と小学校の円滑な接続を推進する。
- ・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催(年1回)

①第1回 幼保小連絡協議会に参加

5月23日(木) 平沢小学校

6月19日(月) 金浦小学校

参加者：就学前施設職員、学校職員、市AD

内容：授業参観、協議会

<今後の予定>

第2回 幼保小連絡協議会(保育参観、情報交換、架け橋プログラムについて)

2月25日(火) 平沢小学校

2月 院内小学校

3月 6日(木) 金浦小学校



②にかほ市 就学前・小学校合同研修会 を開催

開催日 8月7日（水）

説明 「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」

演習・協議「育ちや学びの連続性を踏まえたカリキュラムの作成の実際」

参加者：8園8名 4小学校4名

※保育士等キャリアアップ研修「幼児教育」3時間対象

（参加レポート提出、アンケート実施）

<アンケート結果>

・説明

満足…10名 やや満足…2名 やや不満…なし 不満…なし

・演習・協議

満足…12名 やや満足…なし やや不満…なし 不満…なし

<参加者の感想より>

・直接関係のある学校、園との協議は、意見交換をしながら進められるのでとてもためになった。園、学校の実情を知る機会となった。また、園での学びについても知ってもらえる機会となり、良い協議だった。（就学前施設）

・小学校の指導要領で定められていることは意識して実践しているつもりでしたが、幼児期にはどのような姿を目指しているのかについて何も意識を持たず指導していたことに気がきました。特に10の姿は低学年でも必要な姿だと思う。（小学校）

・架け橋プログラムについて、自園だけでは進められないので、市、学校、園でもっと、もっと交流の場、一緒に進められる場があってもいいのかなと思います。（就学前施設）

*アンケート結果をおたよりにまとめ、各就学前施設、小学校、学校教育課へ配布した。研修会の内容を全体へ周知できるようにし、更なる連携や接続の意識が高まるきっかけになるよう心掛けた。

③架け橋プログラム合同開発会議開催

開催日：11月27日（水）

講師：秋田県幼保推進課

参加者：学校教育課、にかほ市校長会会長、にかほ市保育協議会会長
こども家庭センター、市AD

<アンケート結果>

満足…4名 やや満足…1名 やや不満…なし 不満…なし

・スケジュールや作成する具体が明確で、見通しをもちやすかった。今後は、参集範囲を広げたり絞ったりして、効率的に共通意識が図れるようにしたい。

・学校と園の風通しをもっとよくするために、行事での交流や授業・保育参観等をもう少し活発に行っていくことができればよいと思う。

・入学の際の「上れないと感じる段差」
「下りたくないと感じる段差」について、
幼保小で具体的に議論したい。



子どもの姿についての語り合い

【成果】

○昨年度から継続的に合同研修会を行うことで、職員間の意識にも変化が見られてきた。また、現場に向けて接続の重要性について意識を高めることができた。

【課題】

- 幼保小の連携に関して積極的に取り組んでいかななくてはという気持ちはあるが、なかなか進まない現実がある。園や小学校が必要感をもって取り組んでいくためのADの働きかけ方や管理職に向けての発信の仕方等を考えていきたい。
- 協議の場が、特別な支援を要する子どもの情報交換に特化している所もある。各園・各学校での子どもの姿を見合ったり、話し合ったりする機会・時間が必要だと思う。
- 開発会議でにかほ市版の期待する子ども像を就学前施設や学校への発信は出来たが、その後の進め方など、改めて部局間での連携や協力の必要性を感じる。

【改善の方策】

△研修会や相互職場体験、保育参観、授業参観等、様々な機会を通じて職員同士が子どもの学びや育ちについて理解を深めるとともに、小学校教育への円滑な接続のための指導計画やスタートカリキュラムの改善が図られるよう、関係機関で連携を取りながら継続した働きかけを行っていく。

(5) 「県との連携体制の充実」

- ・ 県主催の協議会や所管研修会へ積極的に参加し、情報交換・意見交換を通してアドバイザーとしてのスキル向上を図るようにした。
- ・ 市町村アドバイザーに学ぶ研修会の継続実施と参加
本市開催：令和6年9月17日（木）にかほ市 仁賀保保育会 つばみ保育園
参加者：潟上市AD 県AD にかほ市AD こども家庭センター
内容：保育参観（1歳児）、保育の振り返り、アドバイザー研修会

9月13日（金）仙北市 社会福祉法人はなさき仙北幼保連携型認定こども園角館こども園
10月15日（火）大仙市 社会福祉法人大曲保育会 大曲中央こども園

- ・ 県主催研修会への参加
6月24日（月）5年経験者研修
7月2日（火）保育実践力習得研修
7月9日（火）園内研修担当者研修Ⅰ
9月12日（木）5年経験者研修
10月22日（火）園内研修担当者研修Ⅱ
1月30日（木）就学前教育理解推進研究協議会Ⅱ

【成果】

○研修会及び連絡協議会への参加によって得た知識や考え方やスキルを自分自身の学びにし、園訪問時などに活用し、園との信頼関係構築につながられた。また、これからのすべきことが明確化されてきた。

【改善の方策】

△今後も保育の基本を学ぶため、様々な研修会への参加、指導主事への同行、他市町村アドバイザーに学ぶ研修会への参加を継続していく。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和6年)の成果と課題

【成果】

○改めて、教育・保育アドバイザーの存在を就学前施設及び小学校に認識してもらうよう努めた。巡回訪問を重ねることで、園との信頼関係も少しずつ構築してきて、様々な語り合いを行うこと

ができるようになった。

○昨年度に引き続き、合同研修会を行うことで幼保小の連携の大切さを現場に向けて周知し、意識が高まってきたように感じる。そこから、もう一歩踏み出せるようアプローチを考えていく。

【課題】

- 巡回訪問を重ねることで、見えてきた課題とどのように向き合っていくべきかと考えるだけで、行動に移すことが出来なかった。
- 保育実践研修の内容検討をし、実施の計画が足りなかった。
- 園や学校の体制や規模の違いにより、経営、環境、理念などそれぞれ特徴があり、課題や要望も多様であるが、全体で取り組むべき課題等を整理、共有し教育・保育体制の充実につなげていく必要がある。

【改善の方策】

- △多くの保育者が参加できる環境作り、研究内容を各園で活かす体制作り、主体的な保育の在り方、子どもの内面理解、一人一人を伸ばす環境の構成を行っていく。
- △架け橋プログラムに係る架け橋期のカリキュラム作成について、今まで以上に部局間との連携を図り、見通しをもって方向付けし実践していく。